



櫨紅葉 (はぜもみじ)

発行：令和6年10月24日（木） （文責） 校長 田中 克三



※学校ホームページでもご覧になれます。QRコードはこちら→

その水の流は、巡り巡って、 結局は自分に返ってくる…

R6.10.11 全校朝会



早いもので令和6年度も後半戦になりました。10月11日（金）の全校朝会では、その日に配られた「前期通知表」を一つの節目ととらえ、「節のない竹を想像したら、おそらく弱い。人生も同じ。しっかりと節目となるように前期を振り返り、前に進むエネルギーにしよう。」と話をしました。

それから、もう一つ。前期に対人関係で悩む生徒が少なくなかったため、「たらいの水の法則」を紹介しました。「たらいの水の法則」とは、「薪を背負って読書する少年」の銅像で知られる二宮尊徳（二宮金次郎）の教えと言われているもので、簡潔に言うと、次のようにまとめられます。

たらいの中の水を、相手側に押しやろうとすればするほど、不思議なほどに自分の方に戻ってくる。
逆に、自分の方にかき集めようとすると、スルスルと手元からすり抜け、向こう側へ逃げてしまう。

ここでは、たらいの水＝（自分が受けた「愛情」や「幸せ」）と考えます。その有難さに気づき、自分以外の誰かに「どうぞ」と譲ったとしても、その水の流は、巡り巡って、結局は自分に返ってくる…逆に、その「愛情」や「幸せ」を当たり前だと思い、感謝を忘れ、「足りない、足りない」と手前にかき集めようとしても、水はスルスルと手元からすり抜けて自分から逃げていくということを教訓として示しています。

例えば、人に優しさを配ると、相手からお礼の言葉や笑顔が返ってきて、自分も元気になるものです。また、周りの人に「ありがとう」を配ると、「どういたしまして」が自分の手元に戻ってきて、互いの関係が良くなり、自分の心が豊かになる感覚に包まれます。逆に、友達の至らないところを、馬鹿にしたり、悪口を言ったり、いじめたりすると、相手を傷つけるだけでなく、自分に悪い形で返ってくる…ということを経験した人も多いのではないのでしょうか。



これから、今年度の後半戦。生徒には、「友だちや先生、家族に『たらいの水の法則』を試してみよう」、「優しさ」と「ありがとう」を周りに配り、「自分らしい生き方」、「なりたい自分の姿の実現」につなげていきたいと思います。」と話しています。

彩（いろどる）～今を描くみんなの個性～



R6.10.25 いよいよ明日、文化発表会・合唱コンクール



朝、校門での挨拶運動から校長室に戻ると、窓の外からスズメの鳴き声とともに教室からの歌声が入ってきます。今年も文化発表会・合唱コンクールの季節がやってきました。総合的な学習の時間や音楽の時間を中心に少しずつ準備を進めてきたものの、本格的な取組は10月16日（水）から実質1週間程度で練習を積み重ねてきました。

今年のスローガンは、「彩（いろどる）～今を描くみんなの個性～」となっています。生徒一人一人が個性を発揮し、それぞれの色で舞台や展示作品を彩り、文化発表会を作り上げていくという願いが込められています。

前日である24日（木）の体育館をのぞくと、3年生のとあるクラスが合唱曲の最後の仕上げをやっていました。「中学校最後の合唱よ！出し切って歌いましょう！」という担任の掛け声に、「おーっ!!」と応える生徒たち…。

クラス全員でつくるこの雰囲気、やっぱり学校っていいですね。



最後の練習前にステージで
円陣を組む3年生

女子チーム 3位県大会出場…



～10/3 三養基・神埼地区駅伝大会～

10月3日(木)、時折小雨が降る天候の中、三養基・神埼地区の中体連駅伝大会が吉野ヶ里歴史公園内コースで行われました。女子の部では、1区の大津さんが区間賞の快走で流れをつかみ、その後のメンバーも粘りの力走を見せ、全体の3位(地区2位)でゴール。

11月8日(金)に開催される県大会への出場を決めました。

続いて行われた男子の部でも、1区の鶴田さんが区間2位と力走し、前半いい位置で展開していきましました。しかし、終盤後続チームに逆転を許し、全体の6位(地区3位)に終わり、惜しくも県大会出場は叶いませんでした。

結果は分かれましたが、ほとんどの選手が自己ベストを更新。これまで約1ヶ月早朝及び放課後の走り込み、タイムトライアル等を積み重ねてきた成果を見せてくれました。また、選手にはなれず、サポートに回った生徒もこの日は雨の中、重たいテントを運び、タオルやドリンクを片手に必死に応援するなど、裏方の役割を見事に果たしてくれました。



祝 優勝 見事、日本一！



～9/30 町長表敬訪問～

本校剣道部の中島真菜さんが、9月15日(日)に大阪市で開催された「第19回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会」に佐賀県選抜チームの次鋒として出場し、見事、佐賀県勢初の優勝、日本一の栄冠に輝きました。

9月30日(月)には、みやき庁舎にて町長を表敬訪問し、結果を報告。岡町長からは、「優勝おめでとう！これからも地元を代表する選手として活躍してほしい。」と更なる活躍へのエールをいただきました。



あれれ？どうなっているの？

～校内 Gallery 第5弾 ユニット折り紙展～

コミュニティ・スクールの一環で行っている「校内 Gallery」の今年度第2弾(通算第5弾)として10月21日(月)から「ユニット折り紙展」を実施中です。

ユニット折り紙とは、基本となる比較的簡単な構造(ユニット)の折り紙を多数作り、それを組み合わせで形を作るタイプの折り紙作品のことです。町内在住の石松由紀子さん、坂本寿子さんから大小さまざまな作品を提供していただきました。



ひと際目を引く「ひまわり」の作品は、よく見ると一つ一つの花びらが折り鶴でできています。また、手で持ってくるっと回すと、万華鏡のようにカラフルな模様が繰り返し出てくる動きのある作品もあります。本校の職員玄関を入ってすぐのところに展示していますので、ぜひご覧ください。



なかばるコミュニティの人⑩

いしまつ

ゆきこ

石松 由紀子さん



折り紙と本格的に向き合ったのは、70歳の頃、高齢者大学で「折り紙教室」を始めたのがきっかけだった。長年続けているコーラスサークルの会合の折に手土産になるようにと「つまようじ入れ」などの小物を制作しては、渡すのが楽しみになった。次第にあれこれ制作を依頼されるようになり、手の込んだ作品も作ることになった。「頭の中で構成や紙の色を自分で考え、工夫するのが何より楽しい。プレゼントするので手元に残ってないのよね。」と目を細めて語る。

素材は包装紙などお金をかけず手近なものを活用している。複雑なものは1日や2日じゃできないものもある。要は一つ一つの積み重ね。手作りで制作していく過程が難しいものほど、出来上がった嬉しさ・楽しさはひとしおだとのこと。人生観にもつながる。

県外に孫はいるが、中学生をはじめとする子どもと交流する機会は少なくなったと嘆く。「スマホもいいけど、ものづくりは楽しいと伝えたいですね…」と優しい微笑とともに温かいメッセージをいただいた。

